英文解釈 L01 第 24 講 短い英文を構造と文脈から読み解く

学習目標

- 3〜5 文の短い英文について、各文の骨格と句・節の働きを捉え、文章全体の意味を組み立てることができる。
- 指示語の対象や文と文の論理関係を、前後の英文に根拠を置いて説明できる。
- 主体・時点・否定・比較・条件・確度などを変えずに、文章全体を自然な日本語へ訳すことができる。
- 本文に明示された事実や条件を特定し、対応する英文を根拠として示すことができる。

1. 一文を読む力から、文章を読む力へ

解説

これまでの講では、英文の主語と述語、句や節のまとまり、修飾関係、否定や比較の範囲などを読み取ってきた。短い文章では、これらを組み合わせるだけでなく、前の文で分かった情報を次の文へ引き継ぐ必要がある。

例えば、最初の文である物について説明し、次の文が This で始まるとする。このとき、This の意味を「これ」と置き換えるだけでは、何を指しているかが分からない。前文で述べられた物・出来事・内容のうち、どれを受けているかを確かめて初めて、文章全体の意味がつながる。

もう一つ重要なのは、**自然な日本語に訳せたことと、本文が確実に述べている内容を理解できたことは別**だという点である。例えば、may は可能性を表すことがある。日本語を読みやすくするために「〜する」と言い切ってしまうと、英文が示す確度を変えてしまう。また、目的を述べる文を、その目的が実際に達成されたという事実に変えてはいけない。一文ずつ意味が通っていても、文章全体で情報が変わっていないかを確かめる必要がある。

2. 構造・文脈・意味を対応させる

解説

短い文章を読むときは、次の四つの操作を組み合わせる。

1. **構造を捉える**。 各文の主語と述語を中心に、目的語・補語・修飾語を確認する。句や節の内部を読む場合も、外側の骨格を見失わない。
2. **文と文をつなぐ**。 it・they・this などの指示対象や、but・however・because などが示す関係を前後の内容から判断する。
3. **意味を保持して訳す**。 誰が何をしたか、いつの出来事か、何が否定されているか、どの条件で成り立つかを確認する。可能性や予定を事実へ変えず、自然な日本語へ整える。
4. **本文に戻って内容を確かめる**。 内容に関する問いは、対応する英文を根拠として答える。本文に書かれていない原因や結果を想像で補わない。

これらは必ず一方向に進む作業ではない。指示語の対象が分からなければ前文へ戻り、訳の意味が不自然なら構造を確かめ直す。文章を読む力とは、こうした確認を必要な箇所で行う力である。

解説では、文の大きなまとまりを次の記号で表す。

- 〈　〉：名詞として働く句・節
- 〔　〕：名詞を説明する形容詞として働く句・節
- （　）：動詞や文などを説明する副詞として働く句・節

©ミライコーチング

S は主語、V は述語動詞、O は目的語、C は補語、M は修飾語を表す。記号は語形ではなく、その文の中での働きを示す。V は助動詞などを含む述語の範囲を下線で示す。M は必ず省略できるという意味ではない。同じ文を複数の図で示すときは、外側の骨格と内側の構造を分ける。矢印は注記に示した語句同士の関係を表す。

3. 例題

例題 1　構造と指示をつなげて読む

1

次の英文を読み、設問 a〜d に答えよ。

Paragraph 1

(1) At the town market, Mina noticed that several shoppers were carrying empty jars. (2) A worker explained that customers could bring their own jars to buy honey without new containers. (3) This rule helps the market use fewer containers each week. (4) Mina did not buy honey that day, but she decided to bring a jar next Saturday.

語注　market：市場 ／ jar：瓶 ／ container：容器 ／ honey：蜂蜜 ／ help A do：A が〜するのに役立つ

設問

a. 構造　第 2 文の主節の骨格を示し、that customers could bring their own jars to buy honey without new containers という節が主節の中でどのような働きをしているか説明せよ。

b. 指示　第 3 文の This rule が指す内容を特定し、第 2 文のどの情報が根拠になるか示せ。

c. 全訳　第 1〜4 文の全体を、意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

d. 明示内容　Mina は次の土曜日に何をしようと決めたか。本文に書かれた内容を日本語で答え、根拠となる文を示せ。

解説

例題 1 の解答・解説

a. 構造　第 2 文の中心は、A worker（S）＋ explained（V）＋〈that customers could bring their own jars to buy honey without new containers〉（O）である。explained は「説明した」という動詞であり、後ろの that 節全体が「何を説明したのか」という内容を表す目的語になっている。

that 節の内部では customers が主語、could bring が述語、their own jars が目的語である。to buy honey は瓶を持参する目的を説明し、without new containers は新しい容器を使わないことを表している。したがって、主節の「店の人が説明した」という事実と、that 節内の「客が瓶を持参できる」という内容を分けて読む。

b. 指示　This rule は、客が蜂蜜を買うために自分の瓶を持参でき、新しい容器を使わずに済むという決まりを指す。根拠は第 2 文の customers could bring their own jars to buy honey without new containers である。第 3 文の helps the market use fewer containers each week は、その

決まりが市場にもたらす働きを説明している。help A do の形で、容器を使う主体は the market である。

c. 全訳　原文　At the town market, Mina noticed that several shoppers were carrying empty jars. A worker explained that customers could bring their own jars to buy honey without new containers. This rule helps the market use fewer containers each week. Mina did not buy honey that day, but she decided to bring a jar next Saturday.

直訳　町の市場で、ミナは何人かの買い物客が空の瓶を持っていることに気づいた。店の人は、客が新しい容器を使わずに蜂蜜を買うために、自分自身の瓶を持ってくることができると説明した。この決まりは、市場が毎週使う容器をより少なくするのに役立つ。ミナはその日、蜂蜜を買わなかったが、次の土曜日に瓶を持ってくることを決めた。

満点の訳　町の市場で、ミナは何人かの買い物客が空き瓶を持参していることに気づいた。店の人の説明によると、客は自分の瓶を持参すれば、新しい容器を使わずに蜂蜜を買うことができるという。この決まりは、市場で毎週使用する容器の数を減らすのに役立っている。ミナはその日は蜂蜜を買わなかったものの、次の土曜日には瓶を持参しようと決めた。

第 2 文の could bring は、文脈上、瓶の持参が認められていることを表す。必ず持参しなければならないという義務ではない。

また、第 4 文では、その日に蜂蜜を買わなかったことは事実だが、次の土曜日について述べられているのは瓶を持参するという決定である。実際に持参したとは書かれていない。

d. 明示内容　ミナは、次の土曜日に瓶を持参しようと決めた。根拠は第 4 文の she decided to bring a jar next Saturday である。

ここで答えるべきなのは「何をすると決めたか」であり、次の土曜日に蜂蜜を買ったかどうかではない。予定・決定と実際の行動を区別することで、本文の内容を正確に捉えられる。

(At 〈the town market〉) [M], Mina [S] noticed [V]

〈that 〈several shoppers〉 were carrying 〈empty jars〉〉 [O].

M “At the town market” / 市場という出来事の場所を示す。
O “that several shoppers were carrying empty jars” / that 節全体が noticed の内容。Mina は気づいた人であり、瓶を持っていた主体ではない。

(At 〈the town market〉), Mina noticed 〈that 〈several shoppers〉 [S] were carrying [V]

〈empty jars〉〉 [O].

V “were carrying” / were carrying は進行中の動作を表す。瓶を持っていた主体は several shoppers である。

〈A worker〉 explained
S V

〈that customers could bring 〈their own jars〉 (to buy honey (without 〈new containers〉))〉.
O O

O “that customers could bring their own jars to buy honey without new containers” / that 節全体が説明の内容。次文の This rule は、自分の瓶を持参して新しい容器を使わずに蜂蜜を買えるという決まりを指す。

〈A worker〉 explained 〈that customers could bring 〈their own jars〉 (to buy honey (without 〈new containers〉))〉.
S V O M

V “could bring” / could bring は文脈上、持参が認められていることを表し、義務ではない。
M “to buy honey without new containers” / 瓶を持参する目的を表す。to buy の主体は customers、buy の対象は honey。without 以下は新しい容器を使わないことを示す。

〈This rule〉 helps 〈the market〉 use 〈fewer containers〉 (each week).
S V O C

S “This rule” / This rule は前文の、自分の瓶を持参して新しい容器を使わずに蜂蜜を買えるという決まりを指す。
O “the market” / help O 原形の O。後続の use を行う主体は the market。
C “use fewer containers each week” → O “the market” / O である the market が容器を使うという関係。each week は毎週の頻度を表す。

〈This rule〉 helps 〈the market〉 use 〈fewer containers〉 (each week).
V O M

V “use” / use は原形。動作主体は外側の help の目的語 the market であり、This rule ではない。
O “fewer containers” / fewer は容器の数がより少ないことを表す。具体的な比較数量は示されていない。
M “each week” / 容器を使う頻度を毎週と示す。

Mina did not buy honey (that day), but she decided
S V O M S V

〈to bring 〈a jar〉 (next Saturday)〉.
O

V “did not buy” / did not buy は過去の否定。その日は蜂蜜を買わなかった。
S “she” / she は Mina を指す。but はその日の未購入と次の土曜日の持参決定を対比する。
O “to bring a jar next Saturday” / to 不定詞句全体が決めた内容。瓶を持参する主体は Mina、対象は a jar、時は next Saturday。実行済みではない。

例題 2　比較と可能性を保って訳す

2

次の英文を読み、設問 a〜d に答えよ。

Paragraph 1

(1) The new footbridge joins the two sides of a canal. (2) Its steps are wider than those at the old crossing, so people with large bags can use them more easily. (3) However, the bridge may close when the wind is strong. (4) Visitors can check the sign near the entrance before they cross.

語注　footbridge：歩行者用の橋 ／ canal：運河 ／ crossing：渡る場所 ／ step：階段の段 ／ entrance：入口

設問

a. 構造　第 3 文の主節の骨格を示し、when the wind is strong が主節にどのような情報を加えているか説明せよ。

b. 文間関係　第 3 文冒頭の However は、第 2 文と第 3 文をどのような関係で結んでいるか。両文の内容を根拠として示せ。

c. 全訳　第 1〜4 文の全体を、比較・可能性・時間の関係を保って自然な日本語に訳せ。

d. 明示内容　訪問者は橋を渡る前に、どこで掲示を確認できるか。本文の根拠となる文を示して答えよ。

解説

例題 2 の解答・解説

a. 構造　第 3 文の主節は、the bridge（S）＋ may close（V）である。

（when the wind is strong）は「風が強いとき」という時の副詞節であり、橋が閉鎖される可能性のある状況を説明している。when 節内の the wind が主語、is が動詞、strong が補語である。主節と when 節を分けると、「橋が閉鎖される可能性がある」という中心内容と、その状況が明確になる。

b. 文間関係　However は、第 2 文で説明した橋の利用しやすさと、第 3 文で述べる閉鎖の可能性を対比している。第 2 文では、階段が以前の渡り場所のものより幅広いため、大きな荷物を持つ人が利用しやすいと述べている。一方、第 3 文では、風が強いときに橋が閉鎖される可能性を示している。便利な点がある一方で、利用できない場合もあるという対比である。

c. 全訳　**原文**　The new footbridge joins the two sides of a canal. Its steps are wider than those at the old crossing, so people with large bags can use them more easily. However, the bridge may close when the wind is strong. Visitors can check the sign near the entrance before they cross.

直訳　新しい歩行者用の橋は、運河の両側をつないでいる。その階段は以前の渡り場所の階段より幅が広いので、大きなかばんを持った人々はそれをより簡単に利用できる。しかし、風が強いときには、その橋は閉鎖されるかもしれない。訪問者は渡る前に、入口の近くの掲示を確認できる。

満点の訳　新しい歩道橋が、運河の両岸を結んでいる。橋の階段は以前の渡り場所の階段よりも幅が広く、大きな荷物を持った人でも利用しやすくなっている。ただし、風の強いときには橋が閉鎖される可能性がある。利用者は橋を渡る前に、入口付近の掲示を確認できる。

第 2 文の those は steps を受け、比較対象は新しい橋の階段と以前の渡り場所の階段である。幅が広くなった対象を、橋全体や運河そのものに変えてはならない。

第 3 文の may close も重要である。「閉鎖される」と断定すると、可能性を事実へ変えてしまう。満点の訳では「閉鎖される可能性がある」として、原文の確度を保っている。

d. 明示内容　訪問者は、入口の近くにある掲示で確認できる。根拠は第 4 文の the sign near the entrance である。

本文には掲示の場所が明示されている。一方、掲示に具体的にどのような情報が書かれているかまでは説明されていない。明示された情報と、ありそうだと推測できる情報を区別して読む。

〈The new footbridge〉 joins 〈the two sides 〔of 〈a canal〉〕〉.
S V O

V “joins” / joins は運河の両岸をつないでいることを表す。
O “the two sides of a canal” / of a canal は sides を説明する。つながれるのは運河の両側である。

〈Its steps〉 are 〔wider (than 〈those 〔at 〈the old crossing〉〕〉)〕, so
S V C

〈people 〔with 〈large bags〉〕〉 can use them (more easily).
S V O M

S “Its steps” / Its は前文の新しい歩道橋を指す。
C “wider than those at the old crossing” / those は以前の渡り場所の steps を指す。比較するのは階段の幅であり、than 以下が比較の基準を示す。
S “people with large bags” / so は、階段の幅が広いことと、大きな荷物を持つ人が利用しやすいことを結果の関係で結ぶ。
O “them” → S “Its steps” / them は新しい歩道橋の階段である Its steps を指す。
M “more easily” / more easily は以前より利用しやすいことを表す。

However , 〈the bridge〉 may close (when 〈the wind〉 is strong).
M S V M

M “However” / 前文の利用しやすさと、この文の閉鎖の可能性を対比する。
V “may close” / may は可能性を表す。close はここでは自動詞であり、受動態ではない。閉鎖が必ず起こるとは述べていない。
M “when the wind is strong” / 風が強いときという状況を示す時の副詞節。橋が閉鎖される可能性と結び付く。

However, 〈the bridge〉 may close (when 〈the wind〉 is strong).
S V C

C “strong” / strong は the wind の状態を表す。

Visitors can check 〈the sign 〔near 〈the entrance〉〕〉 (before they cross).
S　V　O　M

V “can check” / can check は掲示を確認できることを表す。
O “the sign near the entrance” / near the entrance は the sign を後ろから修飾し、掲示の場所を示す。掲示の具体的内容は述べられていない。
M “before they cross” / before 節は、橋を渡るより前に掲示を確認できるという時間関係を示す。they は Visitors を指す。

Visitors can check 〈the sign 〔near 〈the entrance〉〕〉 (before they cross).
S　V

S “they” / they は主節の Visitors を指す。
V “cross” / before 節は掲示を確認するより後の動作を表す。cross に明示的な目的語はないが、文脈上は橋を渡ることを指す。

4. 演習問題

次の 3 つの文章を読み、それぞれの設問 a〜d に答えよ。構造と文間関係を確かめたうえで、文章全体を訳し、本文に明示された内容を答えること。

演習 1　出来事の記述

1

Paragraph 1

(1) Before the evening event, Hana prepared bowls for the guests at a small cooking class. (2) When she opened the cupboard, she found that some bowls were still wet from washing. (3) She placed the wet bowls on a clean table and used dry ones for the first guests. (4) All the bowls were dry by six, and the next group arrived at half past six.

語注　event：行事、催し ／ cupboard：食器棚 ／ bowl：器、ボウル

設問

a. 構造　第 2 文の主節の骨格を示し、When she opened the cupboard という節が主節とどのような関係にあるか説明せよ。

b. 指示　第 3 文の dry ones の ones が何を指すか。前後の英文を根拠として示せ。

c. 全訳　第 1〜4 文の全体を、出来事の順序や主体を保って自然な日本語に訳せ。

d. 明示内容　次のグループは何時に到着したか。本文の対応する箇所を示して答えよ。

演習 2　短い説明文

2

Paragraph 1

(1) At a pottery studio, workers put wet clay cups on wide shelves to let them dry. (2) The shelves stand near open windows, but direct sunlight may dry the cups too quickly. (3) If the cups lose water too fast, small cracks can appear. (4) For this reason, workers close the curtains on very sunny days.

語注　pottery studio：陶芸工房 ／ clay：粘土 ／ shelf：棚 ／ direct sunlight：直射日光 ／ crack：ひび

設問

a. 構造　第 3 文の主節の骨格を示し、If the cups lose water too fast という節が主節にどのような条件を加えているか説明せよ。

b. 文間関係　第 4 文冒頭の For this reason は、第 3 文と第 4 文をどのような関係で結んでいるか。両文の内容を根拠として示せ。

c. 全訳　第 1〜4 文の全体を、条件・可能性・理由の関係を保って自然な日本語に訳せ。

d. 明示内容　作業員はどのような日にカーテンを閉めるか。本文の根拠となる箇所を示して答えよ。

©ミライコーチング

演習 3　短い意見と対比

3

Paragraph 1

(1) I think our town should give cyclists and walkers different hours on the narrow riverside path. (2) Some residents want to cycle quickly, while others prefer to walk with small children. (3) Neither group needs the path for the whole day. (4) A new schedule may help both groups, but the town has not chosen one yet.

語注　cyclist：自転車に乗る人 ／ resident：住民 ／ riverside：川沿いの ／ narrow：狭い ／ schedule：予定表、時間割 ／ prefer：〜をより好む

設問

a. 構造　第 2 文の主節の骨格を示し、while others prefer to walk with small children という節が主節とどのような関係にあるか説明せよ。

b. 指示　第 3 文の Neither group が指す二つの集団を特定し、第 1〜2 文の情報を根拠として示せ。

c. 全訳　第 1〜4 文の全体を、意見・対比・否定・可能性を保って自然な日本語に訳せ。

d. 明示内容　町は新しい利用時間の取り決めをすでに選んでいるか。本文の対応する箇所を示して答えよ。

©ミライコーチング

5. 演習問題の解答・解説

演習 1 の解答・解説

1

a. 構造　第 2 文の主節は、she（S）＋ found（V）＋〈that some bowls were still wet from washing〉（O）である。found の目的語は that 節全体であり、「いくつかの器が洗ったあともまだぬれていた」という発見の内容を表している。

これに対して、文頭の（When she opened the cupboard）は時を表す副詞節であり、主節の she found … が起こった時点を説明している。when 節では she が主語、opened が述語、the cupboard が目的語である。つまり、食器棚を開けたときに、器がまだぬれていることに気づいたという時間関係になる。

b. 指示　dry ones の ones は bowls を指す。第 2 文には some bowls were still wet from washing とあり、第 3 文では the wet bowls と dry ones を区別している。ones は前に出た複数名詞 bowls の繰り返しを避けた表現である。ここでは「乾いた器」と読む。wet bowls と dry ones は、器がぬれているか乾いているかによって区別されている。

c. 全訳　原文　Before the evening event, Hana prepared bowls for the guests at a small cooking class. When she opened the cupboard, she found that some bowls were still wet from washing. She placed the wet bowls on a clean table and used dry ones for the first guests. All the bowls were dry by six, and the next group arrived at half past six.

直訳　夕方の催しの前に、ハナは小さな料理教室で客のための器を用意した。彼女が食器棚を開けたとき、いくつかの器が洗ったあともまだぬれていることに気づいた。彼女はぬれた器をきれいなテーブルの上に置き、最初の客には乾いた器を使った。6 時までにはすべての器が乾いており、次のグループは 6 時半に到着した。

満点の訳　夕方の催しに先立ち、ハナは小さな料理教室で参加者用の器を準備した。食器棚を開けると、洗った器の一部がまだぬれていることに気づいた。ハナはぬれた器を清潔なテーブルに置き、最初の参加者には乾いた器を使った。6 時までにはすべての器が乾き、6 時半には次のグループが到着した。

第 3 文では placed と used が同じ主語 She に結び付いている。ぬれた器を置いたことと、乾いた器を最初の客に使ったことを、別々の人の行動として訳さない。

時間については、第 4 文の by six が「6 時までに」、at half past six が「6 時半に」を表している。この二つを混同しないことが、出来事の順序を正確に読むうえで重要である。

d. 明示内容　次のグループは 6 時半に到着した。根拠は第 4 文の the next group arrived at half past six である。

同じ文に All the bowls were dry by six とあるが、これは器が乾いた時点についての情報である。何が 6 時までに起こり、何が 6 時半に起こったのかを対応させて読む。

(Before 〈the evening event〉) [M], Hana [S] prepared [V] bowls [O] (for 〈the guests〉) [M]
(at 〈a small cooking class〉) [M].

M “Before the evening event” / 夕方の催しより前という時を示す。
M “for the guests” / for the guests は器を用意する相手・受益者を示す。
M “at a small cooking class” / ここでは料理教室を準備の場所として読む。

(When she opened 〈the cupboard〉) [M], she [S] found [V]
〈that 〈some bowls〉 were still 〔wet (from washing)〕〉 [O].

M “When she opened the cupboard” / 食器棚を開けたときという時の副詞節。主節の発見が起こった時点を示す。
S “she” / she は前文の Hana を指す。
O “that some bowls were still wet from washing” / that 節全体が発見の内容。いくつかの器が洗ったあともまだぬれていたという状態を表す。

(When she [S] opened [V] 〈the cupboard〉) [O], she found 〈that 〈some bowls〉 [S] were [V] still [M]
〔wet (from washing)〕〉 [C].

S “she” / she は Hana を指す。
M “still” / still は、ぬれた状態がその時点でも続いていたことを表す。
C “wet from washing” → S “some bowls” / wet from washing は some bowls の状態を表す補語。from washing は洗ったことに由来する湿りを示す。washing は前置詞 from の後の動名詞である。

She [S] placed [V] 〈the wet bowls〉 [O] (on 〈a clean table〉) [M] and used [V] 〈dry ones〉 [O]
(for 〈the first guests〉) [M].

S “She” / She は Hana を指し、placed と used の共通の主体である。
M “on a clean table” / on a clean table は、ぬれた器を置いた場所を示す。
V “used” / and で placed と並列され、主語 She を共有する。
O “dry ones” / ones は bowls という種類を受ける。dry ones は乾いた器であり、前の wet bowls と同一の器とは限らない。
M “for the first guests” / 乾いた器を使った相手は最初の客である。

〈All the bowls〉 [S] were [V] dry [C] (by six) [M], and 〈the next group〉 [S] arrived [V]
(at 〈half past six〉) [M].

C “dry” → S “All the bowls” / dry はすべての器の状態を表す形容詞である。
M “by six” / by six は 6 時までに乾いた状態になっていたことを表す。ちょうど 6 時に乾いたとは限らない。
V “arrived” / and は器の状態と次のグループの到着を結ぶ。
M “at half past six” / at half past six は 6 時半という到着時刻を示す。by six とは異なる。

©ミライコーチング

演習 2 の解答・解説

2

a. 構造　第 3 文の主節は、small cracks（S）＋ can appear（V）である。

主節の前に置かれた（If the cups lose water too fast）は条件を表す副詞節である。

if 節内では the cups が主語、lose が述語、water が目的語であり、「器があまりに速く水分を失うなら」という条件を示している。その条件のもとで、小さなひびが生じる可能性を can appear が表す。したがって、器に必ずひびが入るという意味ではない。

b. 文間関係　For this reason は、「そのような理由で」という意味であり、第 3 文で述べた問題が、第 4 文の作業員の行動につながることを示している。第 3 文では、器があまりに速く水分を失うと小さなひびが生じる可能性があると説明している。第 4 文では、そのために作業員が非常に晴れた日にカーテンを閉めると述べている。ひびが生じる可能性を考慮して、カーテンを閉めるという理由と対応する行動の関係である。

c. 全訳　**原文**　At a pottery studio, workers put wet clay cups on wide shelves to let them dry. The shelves stand near open windows, but direct sunlight may dry the cups too quickly. If the cups lose water too fast, small cracks can appear. For this reason, workers close the curtains on very sunny days.

直訳　陶芸工房で、作業員たちは、ぬれた粘土のカップを乾かすために幅の広い棚の上に置く。棚は開いた窓の近くにあるが、直射日光はカップをあまりに速く乾かしてしまうかもしれない。もしカップがあまりに速く水分を失うなら、小さなひびが現れることがある。この理由で、作業員たちは非常によく晴れた日にカーテンを閉める。

満点の訳　陶芸工房では、作業員がぬれた粘土製のカップを乾燥させるため、幅の広い棚に置く。棚は開いた窓のそばにあるが、直射日光が当たるとカップが急速に乾きすぎるおそれがある。カップの水分が失われる速度が速すぎると、小さなひびが生じることがある。そのため、作業員は非常によく晴れた日にはカーテンを閉める。

第 1 文の to let them dry は、作業員がカップを棚に置く目的を表す。ここでの them は clay cups を指すため、乾燥させる対象を棚と取り違えないようにする。

第 2 文の may dry と第 3 文の can appear は、どちらも可能性を表している。直訳の「〜かもしれない」「〜ことがある」を、満点の訳では「〜おそれがある」「〜ことがある」と表現しているが、いずれも可能性を事実として断定していない。

d. 明示内容　作業員は、非常によく晴れた日にカーテンを閉める。根拠は第 4 文の workers close the curtains on very sunny days である。

第 3 文の条件は、ひびが生じる可能性を説明するものだが、カーテンを閉める日について直接述べているのは第 4 文である。問いに最も直接対応する箇所を根拠として選ぶ。

(At 〈a pottery studio〉) M, workers S put V 〈wet clay cups〉 O (on 〈wide shelves〉) M (to let them dry) M.

M “At a pottery studio” / 陶芸工房という作業の場所を示す。
M “on wide shelves” / put の置き場所を示す必要な補足情報。棚の上に置くという関係で読む。
M “to let them dry” / カップを乾かす目的を示す。them は wet clay cups を指す。乾燥の達成までは述べていない。

(At 〈a pottery studio〉), workers put 〈wet clay cups〉 (on 〈wide shelves〉) (to let V them O dry C).

V “to let” / to let は目的を表す不定詞句の動詞部分。let O 原形の形を取る。
O “them” / them は主節の wet clay cups を指す。
C “dry” → O “them” / dry は動詞の原形であり、them が乾くという動作を表す。形容詞の dry とは区別する。

〈The shelves〉 S stand V (near 〈open windows〉) M, but 〈direct sunlight〉 S may dry V 〈the cups〉 O (too quickly) M.

V “stand” / stand は棚がその場所にあることを表す。
M “near open windows” / 開いた窓の近くという棚の位置を示す。
S “direct sunlight” / but は棚の配置と直射日光による乾燥リスクを対比する。
V “may dry” / may は可能性。dry は目的語を取る他動詞で、カップを乾かす働きを表す。
M “too quickly” / too quickly は乾く速さが過度であることを表す。

(If 〈the cups〉 lose water (too fast)) M, 〈small cracks〉 S can appear V.

M “If the cups lose water too fast” / if 節は、器が水分を失う速さについての条件を示す。
V “can appear” / can appear はひびが生じる可能性を表す。条件が満たされても必ず生じるとは述べていない。

(If 〈the cups〉 S lose V water O (too fast)) M, 〈small cracks〉 can appear.

O “water” / lose water は器が水分を失うことを表す。
M “too fast” / too fast は水分を失う速度が速すぎることを示す。

(For 〈this reason〉) M, workers S close V 〈the curtains〉 O (on 〈〔very sunny〕 days〉) M.

M “For this reason” / this reason は、水分が速く失われるとひびが生じる可能性を指す。実際にひびが生じたという意味ではない。
V “close” / 前文で示されたリスクが、作業員がカーテンを閉める理由となっている。
M “on very sunny days” / カーテンを閉める日を示す。very sunny は days を修飾する形容詞のまとまりで、非常によく晴れた日を表す。

演習 3 の解答・解説

3

a. 構造　第 2 文の主節は、Some residents（S）＋ want（V）＋〈to cycle quickly〉（O）である。主節の want は「望んでいる」という意味であり、to cycle quickly という不定詞句全体が、何をしたいのかという内容を表している。

（while others prefer to walk with small children）は対比を表す副詞節である。節内では others が主語、prefer が述語、to walk with small children が prefer の目的語となる内容を表す。ここでの while は、二つの行動が同時に行われていることよりも、住民の希望の違いを示している。

b. 指示　Neither group は、川沿いの道を自転車で速く走りたい人々と、小さな子どもと一緒に歩きたい人々の二つの集団を指す。第 1 文には cyclists and walkers とあり、第 2 文では Some residents want to cycle quickly と others prefer to walk with small children によって、それぞれの希望が説明されている。

第 3 文の Neither group は、これら二つの集団のどちらについても、一日中その道を必要としているわけではないことを述べている。

c. 全訳　原文　I think our town should give cyclists and walkers different hours on the narrow riverside path. Some residents want to cycle quickly, while others prefer to walk with small children. Neither group needs the path for the whole day. A new schedule may help both groups, but the town has not chosen one yet.

直訳　私は、私たちの町は自転車に乗る人と歩く人に、狭い川沿いの道で異なる利用時間を与えるべきだと思う。一部の住民は速く自転車に乗ることを望む一方で、ほかの住民は小さな子どもと一緒に歩くことを好む。どちらの集団も、その道を一日中必要としているわけではない。新しい時間割は両方の集団の助けになるかもしれないが、町はまだ一つも選んでいない。

満点の訳　私は、町が狭い川沿いの道について、自転車利用者と歩行者の利用時間を分けるべきだと考える。自転車で速く走りたい住民がいる一方、小さな子どもと一緒に歩きたい住民もいる。どちらの集団も、一日を通してその道を使う必要があるわけではない。利用時間を新たに定めれば両者にとって役立つかもしれないが、町はまだ具体的な時間割を決めていない。

この文章では、発言者の意見と、町の決定状況を区別することが重要である。

第 1 文の I think … should … は、発言者が望ましいと考えることを表している。町がすでに利用時間を分けると決定したわけではない。

第 3 文の Neither group は二つの集団のどちらも当てはまらないことを示す。ただし、否定されているのは「一日中その道が必要である」という内容であり、両者がその道をまったく必要としないとまでは述べていない。

さらに第 4 文の may help は、利用時間を分けることが役立つ可能性を表す。町がまだ時間割を選んでいないことも、but 以下によって明確に述べられている。

d. 明示内容　町は、まだ新しい利用時間の取り決めを選んでいない。根拠は第 4 文の the town has not chosen one yet である。

has not chosen は現在完了の否定形であり、yet とともに「まだ選んでいない」という現在までの状況を表している。

発言者は利用時間を分ける案を提案しているが、それは町が実際に決定したという事実ではない。提案・可能性・決定済みの事実を区別することで、文章が伝える内容を正確に読み取れる。

I think 〈〈our town〉 should give 〈cyclists and walkers〉 〈different hours 〔on 〈the narrow riverside path〉〕〉〉.
S V O O

O “our town should give cyclists and walkers different hours on the narrow riverside path” / think の目的語は that が省略された内容節全体。町が利用時間を分けるべきだという発言者の意見であり、町の決定ではない。

I think 〈〈our town〉 should give 〈cyclists and walkers〉 〈different hours 〔on 〈the narrow riverside path〉〕〉〉.
S V O O

V “should give” / should give は利用時間を分けるべきだという提案を表す。
O “cyclists and walkers” / O1・受け手 / cyclists and walkers は、異なる利用時間を与えられる二つの集団。
O “different hours on the narrow riverside path” / O2・与えるもの / different hours が与える内容。ここでは on the narrow riverside path をこの名詞句内の修飾と捉え、その道での利用時間を限定する。

〈Some residents〉 want 〈to cycle quickly〉, (while others prefer 〈to walk (with 〈small children〉)〉).
S V O M

O “to cycle quickly” / to 不定詞句全体が want の内容。自転車に乗る主体は Some residents であり、quickly は走る様子を表す。
M “while others prefer to walk with small children” / while 節は二つの住民集団の希望を対比する。ここでは行動の同時性を述べるものではない。

〈Some residents〉 want 〈to cycle quickly〉, (while others prefer 〈to walk (with 〈small children〉)〉).
S V O

S “others” / others は前半の Some residents とは別の住民を指す。
V “prefer” / prefer は好みを表す。実際に歩いたという事実ではない。
O “to walk with small children” / to 不定詞句全体が prefer の内容。歩く主体は others であり、with small children は一緒に歩く相手を示す。

〈Neither group〉 needs 〈the path〉 (for 〈the whole day〉).
S V O M

S “Neither group” / 前文の自転車で速く走りたい住民と、小さな子どもと歩きたい住民の二集団を指す。どちらも「終日必要」という条件には当てはまらない。
M “for the whole day” / for the whole day は必要とする時間の範囲。一日中必要ではないが、必要性がゼロか、一部の時間に必要かは確定しない。

〈A new schedule〉 may help 〈both groups〉, but 〈the town〉 has not chosen one yet.
S V O S V O M

V “may help” / may help は役立つ可能性を表す。実際に効果があったとは述べていない。
O “both groups” / both groups は前文の二集団、自転車で速く走りたい住民と小さな子どもと歩きたい住民の両方を指す。
S “the town” / but は新しい時間割が両者に役立つ可能性と、町がまだ選んでいない現状を対比する。
V “has not chosen” / has not chosen は現在完了の否定形。選択が現在まで完了していない。
O “one” → S “A new schedule” / one は前半の a new schedule と同じ種類のもの、すなわち新しい利用時間の取り決めを指す。
M “yet” / yet は否定形とともに「まだ」を表し、未決の状態を示す。

©ミライコーチング